俳諧四季文集

初篇

上

三カ

觀瀾堂藏書
豐田郡中野姓

俳諧四季文集序

朝夕俳諧之園優游翰墨之林此亦聞人之一樂事哉夫聆金聲于他邦挹藻思于曠代者書卷與須臾眉庵主人采掇近時俳家文章為俳諧四季文集意在將來同好

東洋文庫

於四方而廣其樂耶抑將使
後人覽之復樂此乎耶剛已
成來請序繇叙數言以書其
端云爾文化辛未仲秋

恬樂居士誌

佛説四季文集序

花屋菴 寄洲

今世佛説大乙行列て玉梓文章を正しくする
一ツ巻白二小連百ゑ文章を行ふ
人を十小六七ゑ書るよつらゑ人十に六四ゑ
文章をもうるあるゑ人わかうゑ一也志うあれを以ふ
一へゑれゑ文章ゑ我ゑうゑへる書もかゑ白まる
のうへまゑ年ゑ有とゑ本ゑのゑ一へうゑれう
巻めゑハ山ゑ物の種ゑ形ゑ一ゑ品ゑ活ゑ人ゑ
すへ一ゑ文章の書ゑ作ゑうゑ遣ゑ巻ゑ

文操文體なしとかきてうすこれ文章につくる
そのかみくみちひくよ人も書すもしあれと
ありけるは鼈者井眉文つくりて綉繍のことくして
つ採の他をもいさなへんのおもしろさまくて近き世
その世ふちらつくのちかもなき芸の練ちかもえら
あれをあすつきはいきくくちの採らすしかもきころ
よ首ちいれ和くつひまてはきからもおすそへききき
大きなるちはひくへつめれ
文化八年辛未仲秋

附言

一集中時賢先達ノ作ヲ録シ長幼尊卑ノ次序ヲワカタズ時代ノ前後ニカヽハラザレバナリ

一五老井カ文選ハ才子文華ヲキソヒ俳諧家ノ文範ナリサレド文モ又時ニ変ジ人ナホ時ニシタガヒ古今宜シキヲ異ニス故ニ今人ノ今ノ詞ニイヘル文選ヲ撰バム思ヲ興セリサレド海内廣ク一時ニ得ベカ

ラズ先初篇ヲナシ次篇三篇年ヲ追テ
大成ヲ欲ス糞ハクハ四方ノ諸君六義ノ詠箴
辭論引碑碣誄予祭悲哀ノ諸篇ヲ
俺カ井菴ニ来投アルヿヲ俟而已

五春莊
井眉誌

俳諧四季文集上

春之部

五春莊井眉選

文王ハ画賛

徳を天地ふるく明を日月ふるく

さくらはうゑを八百年ぬ初り紀　二村

飯貝うろこのさゝ波満ちてとこゆ

山を巻こゝろを巻ま姉と資ことのゆ巻ゆ巻ま

山ちかき森ふゆゆく中をよぶ川　曉臺

すこうあるくゆるく仕女の琴ひきさくに菊

ふるくるまのまくやもの月　蓼太

盜くふる物採之集

押ふくる物しるくふくくふ盜人のくるまし

いくつよ吟くぬ人のもあはくあほくる毋ふ

なり山山のくくを神のをまちくくれる年

をいまくむくくくさまふ胸くくいを祝を仕

のくふなくくやくりをるをくくくやつくくを

をくくを向いを無あるやれふなくるをくをを思

ひくほくふの米かのまくえくひのを重なをはをを庶

を面梢をくのくもふふくくくくを蜂くくの

なる庵ーがけふのくくる散をくをぬ一末くを庵くふ夏の

ふむくくろなくーくくを留ふう風れを数くくくを納記

ふをを重くをくやす貝いをるを過をくくいくくんるを

ふくくひなくくくくを仕ををくをの雨をくくくみる

をくくくくる魂ひやくくを為を毛いくくをくくくくをを恋

てをくくる者の人をくくくを仕ををくくくくくくくを

けに尺蠖の身とのへまし雉乃しはもとすはなやうつくしき木
乃まこそ侍らねのふさやかにしんとするにおもしろきのふ
とうもすなる息いひつちはをうちわくきしくおもしろきに
はふるさくうりのけさうすく落ぬさへてぬるくねるくぬを
誰となきつれ助るふ絶つふつくらに蟲のかしら都ともふ
ふのむかしはいまそくこそ川國標の翁よりは楽しくおもえて
いおしへのたのしきのりし愚一口のおもひをなしつのふる
うち笑くぬる人ぞいまかりしくもえすゑるべきは看
さ滴のはそうしも作もよまれ古墳きさ蛸しつき
何とおもくとのかは花を見へる花の見ろさき繁栄さきき

秋けめとくのりんなりふさあしぬをなくしてつくり火は
はるえかり汗まちしてふりぬふく絲の衣紅葉擬
よしおはなすまなき人かしとくま顔ともるしまるに
あふとそくしくはのまりもけるちくをきてとのふつまみ
いもりてふかいさりま後むくうりも腹ふつきに
與あるけふ忌露なくみねをめすくもやすくるにつ
いつしか年も霜まちてま係生さくりぬるし本
侍ふ鶯ぬしもみのはなりにかしきの鳥はうつく
帰ふまさかはき吹笑ふうれ

石蘭

梅を画くこと数

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

濃うめく蕚をうつ紫つくづくよさ匂いのふく

[illegible]

[illegible]

不自由れる天[illegible]にさくよ梅の花　奇洞

[illegible]年の秋ト居に賀ふ祝を[illegible]

異服町に徒歩の[illegible]を思ひ出[illegible]

[illegible]やまのこふく町　大魯

賞ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]谷の戸にはる[illegible]

[illegible]

唯汝芳[illegible]

[illegible]すは中[illegible]初春　井眉

加行莊園の海――を樗櫟のたらいうちゆく
高うさく美者なるぬ　櫻ゑれ　蘭更

半をかくもちをいうぬ考未ゑ未ゑいうなく
常くうてゑをゑ是の指をふさく毎――
さきしふ杉うをまとはーゆうり　十二八　釣翁

酔ふく呑毎をを酒却ゑくくゑくさのゑふをゑ弁ゑ
柳を眉うをゆかく行得く美人を眼ゆうを

自ゆをふ歌一夜　柳の美ゑ入る　タニハ　武陵

ちふをちくをきくをちうを風月の友行をゑゆいくをを
やうゑ西行の骨ゆく人をたうゆをいうる人を
はうをもしけんをの物笑常を峠く郵巴のを
乃うをゆくゆををうをいかうをゆ

人の骨ふ芽を知ぬものうをの月　ヨハリ　士朗

人を出境行ををゆふうをを出地ハ入をゆくをゆを
ままし文しきふ待ゆ海ーををゆををゆし

寺来嘆う蔵柿食に出ける人こゝにかゝるこゝ
ゝ得たりとこゝに車

夫よりしばらく人をかさねさる山　江戸　成美

杉を山にはかりたをすと姉と思ふる郎翁の
あくとそこふ成んな里と傷りかれとそれ猛立
ちにをまを鐘と杉のまことのやまいとをを雪

むら杉　梅あを紅ぬいとなぐ　長齊

ゝもきこゝにかゝるこゝとかゝせて二畳のいとりふ十ゝと

植をかゝるかゝ
ゝるまをかゝるこゝ乃いけこゝに行れる春の西紙
雪をしなりうかゝを世ふ和ぬむ人を仏りるを人名
とくくをかゝるめ少をををををををををを
をつゝう帰ゝるをのををををををををを
柳を柳ゝいつゝう見ゝる西ゝふゝれゝをなけ
ををを乃三つ四つをむ方をを咲ゝるゝゝれ
ゝをををををれををれ

杉ゝ原　杉をかゝをゝて　初をゝら
ゝをゝを晴を雪を杉ゝ原ゝを杉ゝ原ゝを

こゑかれ嘯するうそき家にありし叟なしの谷足ん
ところ来まろり嫁が杖に縋んすがりしつまくり咲
またところむに腰をそらしうれあるしはいろ見のち
とりにいさりよりきうは盧同う風流きを改そしとも
いさうろそうりをとしゆりし此一標の手そ折志くり
けりとるの風流いよ折りしかりけり

イヨ 樗堂

やよひすゑまさ半なるそ留よ昼る花ちるさてる暮の
嘉紫に風そして艶能花を引わけしたるれかきよ
よ囀りゑもとかきしきな雪

あら飯を行れなるうまさらぬ分り

ヲハリ 方明

山影入門に入る牡丹花紅上欄干なるをきくのまろ
うし人乃寺作なりされとまち一拙をとうしくうちみせ
家う日のもと此流河の自在は渡月橋あり

月光西にわたれは花影東にあゆむかな

蕪村

改名せし人に贈る

むしろ給を朱染からしは牡丹を蓋にまいらへし
濃むらさきをむつましくれとそ揚巻うちぬ

傚ふるまりみまくの白郎ともとうかり

ちる梅は色さへ藤となる花　升六

菜葉つゝてん人ゝふいさかゝ雪ちゝふくしとりし
岸まうひつりえもてふ折うを折るむしまなんとん咲
出るゝるふあるしらほりゆきいはいとをさらけなるま
中くれうし

宮らひす於春かりけりしまなり

こし加もしつやひしやそふるめしいさり出るゝるふ
雫くのなよくめりくまるそみとひをちらしせふるこく　澤皇

まゝるしなかのまゝけなかれを袖ゝゝるはいかくゝ給る
いかりのあるし都とゝうしゝすはそゝきてさうりしとゝ花
ゝるけしゝゝこれさゝ折るいかそひなりゝまる

藤つゝく花まつむく朝ともり　来鉅

いさゝう山ゝ折ゝよ牟ゆきそ生継義仲寺のつとゐて
ましらゝひを申けり家

家ゆゝるとゑてまあらす根なし草　アツミ 重厚

虚よひ十月望ゝ見ふ出るゝれを村をさみふよ呉僧侶まの本

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹有（ヲハリ）

[illegible]

[illegible]

黄菊[illegible]ほとゝぎす毋の良　京　葛羊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

北亞（カハ）

柏木[illegible]落門鞠をとゝのゝ[illegible]枝ふ[illegible]ま[illegible]枝[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白雄

いなゝ[illegible]る人のもてるまり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文鳥（十二）

鶴枕辞　花月楼者肥長崎寄合街哥舞之家也

慮生う蒙むの生枕ゝ栗のいしふさゝ[illegible]一睡の

手枕ハ妹乃夢ニ起さるゝ人しられぬ楼の錦は秋を
うつさるゝこりにかゝり浦田鶴にしらぬ旅の
しられぬとも鶴乃枕とかんむ門さる浴君か一般の
うり枕ハ鶴は千ゝ夜の契をこそ人の眺めに哉ありける
こゝを鷺さんとの加ゝ人乃さくみとも守えぬとし夜の
獏の枕七夕の枕は写すてつきよは浦のうらしたり
かよふん人とけ河水の流よ一夜の枕をもつひふ中秋の
数とうさねくるもちきり八つゐさるかしころ
さらに姫ふうしる事盤は枕の角　奇淵

俳諧四季文集

夏之部

無上菩提の種紙植る江戸は極楽安ら跡といひとるい
まかふ三途河をこすしやらるゝ
世紙いふ種や江戸は物しきす　士朗
やゝいまいりつまりおそはなくしるむと言ふるゝままそれの
鳥は雲皆より

むしまあゐ ゑちごやせ秋にかくれけり　雄潤

加護らしはなしあいしあし飛彈し多ゝけ給ふ檀かつらの
ましはきくらえわかりきたるに中男れ多なれは月をとや
治は角にさし出たりこなたなる又之宮の社まへれ
竹まくに音僧らすまし

雪ゆりは霊まり申せん夏のこゑ　志なの 柳荘

越後の国をゆきつゝ徳彦と以ふ所にいたる
うしくすゝむしをゆき家なりつゝりをみる家のうつりに

菖蒲の垣見えぬかなるに咲きを添ひけるそのかみ歌て
女のいさゝまて撫のころ紙なくさいえよ〳〵せとくまける
こゝろさしのあとさまに覚えて

かきつはの筆にもかれぬあやめ草　三河 卓池

垣牟し安らかならし家を何の為は家を野の要明を
思ふ所の自むをさんむとの為に方丈の室を造りてをらする
きかるにはむちを文述し世を経しし秋をつくるとより
木の葉もくらかの住みを供をて垣まくしつゝまにかけ
とこにおきて雨はよ何かし卯の花の垣萩は新戸へ

のちきこえあるうち百歳をすぎて位あがりて人をすぎ角紙
折ものとなりしふゆもあるを末の系の中ふかく
ちへうちへとうちへとうちへとうちへとろを掘る蔵と蛇の筆の
うちへかくるを手とむとふ故なる欲望をし

怪しくこ小鼠ふるうぬ姫牛　馬印

百のふりうる自おそく起あるに合歓ちるこ祝うるあり
猫あり筆あるとる幾年く杉の門うる四睡の男をなる

筆ふてせうつかしうる合歓の系　あき風律

瀧の記

象の牛山ふる入る滝の水ふるれる水の勢ひされ
うる自然を終くると怪しかれて身はまるいたるぬ杉
ふるを力るる蔵系杜系ふる鉄鎖るるく動ふる合さる
やうく流のもふふる馮月を象ふ山みなるて山るるる
て杉夾深く攀る年しく樵るる杉樵の系れ
記るむ加るくるるくほるるるなるくる滝をるるるる
ようと異あるる一こたるうる行きるくを段
うるるるを自ほるるるるるるる滝系系れ
るるるる巖ふるるけうるるるるるるる浸しるる深しふる

めぐる流れの盃をさゝくさく縁者のいつしの日なくハなとも思ひ
みちのまゝはゞからで山路の人もひとり遊び者み
ての私人の我も帰りて床をとしてはからずもなん詩よつくらせ
わしれる新らしき称をもとむ見し

あらたし湯のまきれの郭公　　江巴

此滝むかつて此紙称しきあらしのやまあいにさ呆さん
とゆきてさとしらし此意死せしてまして行しうて称の橋を
わたるいに人の心称の紙跡しらむその夢の宿
まはりに妻瀧にあひぬ夢に浮しかなくてたゞたちにて一の瀬二
の瀬を傍方のもれ乱を散るに又宮に志をもとめてのし

色紙なく吹あふる風の音のミをの流れやさしく清げ
なる川の面をはまりかゝりをこしきこしまぐさし川の大さゝやかれ
みな霞のかゝる小松の根ながら投出しまてる紙柴橋より
あやうさになん方よし盛をなれもの心ちつハ千鳥の躍をなれ
ともそのまゝ入しともに替へられぬ縁あるしに今まで汁御より通
ふる廻りの屋このしまさ称されを眠りを魂ことへ御事ハ風情
おもしひをせめ法いかにわけなきさかりに心もなうりや

宮滝や夏深しさ捨ても　　月居

紫はしや山まかりしてうるもし　　馮月

[illegible]

[illegible]

なち志の[illegible]　　蕪村

一句井[illegible]人々の集[illegible]百姓の其歳

賀茂川の水蓼[illegible]

かも川の蓼[illegible]日や[illegible]　　桂五

甘酒[illegible]漬沖鱠の[illegible]菜[illegible]の

[illegible]の穴[illegible]

戸板ふ蘭[illegible]

大乗山の風[illegible]

[illegible]の[illegible]

すしに死[illegible]　　出羽　五明

[illegible]

つ[illegible]見ふる水の四月[illegible]　　卧央

田[illegible]崩[illegible]五百の石を[illegible]度会を[illegible]

頂上の荊榛と化を鬼神夜哭して走獸を叫んで
風雲須臾の変をなす此山の峯なるべし

雲起るよりこの岩もゝ夏さむし　冥々

そもそも百の無うの衣は神ふ色うの事ものい大原
はなかなか古知谷なりふるあるを拾ひてなきはの
のかひとなるやる枝の落葉文をもやすしかるハ
なれはの大サ栗のの葉やはものゝ事ふ弁ち
なるのやうあるかなるかの形ふ衣ふおなつるたりの
おもしろくぬし思ふ枝ふ　藍堂

水盤壽石銘

石ふ水ふなれ盤大ふ異なりなるふ石ふ
なるなるしなるなるなるなるなるなるなる
石なる鄙なるなるかなるなるを動くやなるなるなり
動静なるなるかなる剛柔相似なるなるなる変る
場なるなるなるなるなる期なるなる水なるなるのなるなる炎
あるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなる
なるなるなるなるなるなるなるなる寿なる銘す

翁代や石なるなるなる　升六

海の中なる鶴ふのちりうるかたのこゝろ

すゝしさの谷ぶせりの井ぜから　江戸　宗鑑

なるまゝふ傾聞一枝のやうとむとしたゝその孫笠の

数ふもゝ

なるの山や海の面ぬれの夢さめ　アハ　青橋

霊源寺ふあるしく

おつ萩の草ふちうしつゝ表ちり　出羽　吾長

なる春るもちれたるまゝ江戸のうち彦くかゝてきる

さみたれなるまゝなるの彦くらふくとつうてきるに

いろくふ豆一鷹とふうり丹ちる　いさ　長翠

五條坊門ふ名ゝ町ちゝありこ何うしの名を

世ちゝ名ゝ人ゝ海中火弟紙後を赤れまちに

かゝけるの彦の中ちうけ笑ちう

夏なやゆゝ名ゝ所の小ちう　蝶夢

てよい三条の橋を渡りて笠置河原の君
を尋ねて藤の糸おもしろい合をうたはうと思ひ
源頼政のうたうしを真似をして用ふんとぬされ
ば唄をいつもの間いつもの人の姿といふを
三つ三つ男をつるの中なりしあるを笹の
後生のつるの

麦秋や深草郭公の臼の形　蓼太

杉の立遠く〜辰松入松うんうんいるのあつらい
つくばいをうしや

十二社　駿岳

苔の辰巳驛より七里ばかり西一貫文ばかり立
石寺ばかりの宗旨の人ぬ様よりけ所ばかり
其いはれ〜へまうも一像もあるまう聖像ばかり
一間紙見ばかりに削り書きるるに叢ばかり生
古松老杉跡をうみみく額ばかり禅意を示を樵鹿の
坊ふうをを自ものの頂ば出より

いさしと月を招いく坊涼し　三津人

一服一句一結のあるこゝをなむ

雪ふるもあらぬ後をよそにして　かが賀　雪雄

ふじ山を延ふ雪かの郎等西七郎う嫌人丸姫の

墓あらくさしも武名をきき人をうれ矢つ紀をも

なをしこの年茶のなをうたうあるれをはきいに然

六月やそはうれ　葉の茶　寿洞

夏の松くるを夏をはうう　萬年

秋之部

墨水歌月記

友をとなりをなかかりをなれ乃祢ふるあをむ梅の木

あり紀の森鳴をやをこ和の月さしのぞうろ泰昌

ふをを流ををうをおうまやわうをもをもをこの角よ

ほをうをうをあるをはよををきをうを味く春の門のをに

舟ををををいをををををの月ををををををををををををを

あるし硯を乞て筆をとりて
をとりふす觀音の夢に新を乞て
あるひとのいつはりの
夢がたりをあるる事はなはだ
なるべし一條の玉
をとりやうにて百般の媚をつくりまとやまの
ち山のあるじを伝ひる侍婦の水掬をすくひ
むきあるとむこうるはるまに縁井の
舟をつかてなりまおちく梯をかけまよ
わりなりやまうし侍ふ
なるれまるものはしおろしまと思ひ
三年峰

三年ふ過て金波の中ふ毋成加行り四
ちりふ毋成ちるにさきえ孫ちまく
あるるふ催うに硯をすりて白を思ひはるひ
取ちいい毋成中のるふわるれるを月
中ふ月をおくふ仙をる命

月ふ月ふ写ふ仙雲

やうるすみる川の水を汲る侍氏ふ命ふ
おのく六盃の奥み入湘ふ梯井の飛流ちる命
かくく雲ちうくあつるいつう月のひかる所を

[illegible]
年ふるさとに世無いかまうらうらして流よ[illegible]
小市[illegible]

のうめ[illegible]

成美（エト）

井里錠

行あり数十年を幸ふ井戸ふ刀をまぬうれこの
後園ふうくふられよく[illegible]人
あまたくく墳墓未情の名残美むつうま名残よ
流馬ふ頂ふ災あるはりふよがくまるの八安く

あ[illegible]
一枝[illegible]
あ[illegible]
[illegible]井里錠[illegible]

青[illegible]井[illegible]月　月居

[illegible]
[illegible]千日寺の[illegible]
[illegible]
[illegible]

きのなしねとそうかう思ひかけもとめたる

夢ふかく分もとる人ゑれ墓参り　嵐雪

ある人寺へ庵をうふまうるに茶毘汲を何孫乃

おもてうら庵のうらに野ゆるる紅匂ひ山ゑう

庵のもと小坊をれ角ふうらう　燕村

あうつれとも瀬山ふまうて堂ゆ分なる探ふ五家

つうふうきく朝風ふるうふ谷ふ吹のもうう滝

のゆきれとはうれ

蔵をたくみち吹ふふ庵を傳　涼佛

中六夜の月ちうしくてうなふ友ふちうちかくう

ひ東ふ月をれを自ふ山の陽ふうふう汐寄る

陽ふふふ月ふ月のいふかふ

なふふふつき味原の清ふ歌いふ月ふ

家ふふふふ角ふ家ふ新をふ萩乃

下枝原ふふふうふ手の傳つふふ新の元を

ふふしふ行ふふのふふふふふふふふふ

ふ角ふの蔓井ふ月蔓遠ふふふ蘇ふわふは

[illegible]年の探ふかきもの嫗のそこちふかく
[illegible]と思ふ女のくらはるべきもの絶しる水と
[illegible]の物はなやかにあつまりめくとちに茶なとちよ
[illegible]
[illegible]便よりとそうはへ[illegible]
[illegible]盛りたもの瓶をふりつまへてそなと有うと
[illegible]姫あるう松のうんふ推のなまふ
[illegible]月をふるうるとちのへ
[illegible]氷雪のしろきを歌さを四かけらきいと面
の山と屏のくく聳えて蓬萊をもて今ふたほるきうの
海を埋まてく士峰まあくふ家あくんのふほをも

うに巣ふくしい網を張らておさけき魚も
浮ぶき捧ぶてわるくハ浮ぶまとくさなくうなる
無しけるかのくきあなに浮ぶふ物ちとも
暫くハ岩戸ふとあるかふ物ちとふふ物ハとの愛へき
情よあるくくとなのたいまに航なるそいまし

中そのの国ふもうう月の雲　井眉

月又ものと海ふ形くふ山となくなるたのうかちれ
茅ふまそよ屏ふうるよりあるえうふ思ひとふ
松の枝ふとあふ物

貧しき人のつとめて　士朗

戸がくし山のふもとにまるうしの原とりつ山ぶみ

年は背や　菊を乗りものさぼ　巣兆（エト）

藤を一見せんとて河内なる梅が鼻ふなやとり

しらしらと日こそ合ふきうりうまかまもわまも

ぬすみ梅の名ゆ一あれをいけあるをふなえらく

もやもや見るれるの続こそ　升六

秋菓山ふ詩しかてをを石村ゆ山所よやる山かさ

ぬり谷深く帰ゆ山ゆ谷ゆ場ゆ場ゆ場ゆ場ゆ場ゆ

ゆゆ芋島ゆ猪頭結廻一ゆる網ゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆあゆゆゆゆゆゆ

十六夜や月をさやせる山の上　椿堂（イセ）

ゆふ人のゆゆゆ古翁の中ゆるゆ巣ゆゆの友ゆゆ

いゆゆゆ白ゆ一油をゆく雑ゆゆの友ゆゆ膝を

ゆゆゆゆゆ其ゆゆ一ゆゆのゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆ清ゆゆゆゆ園の敷雀ゆゆゆゆゆゆゆゆて

うゑ山路の帰るさあはれ橋のまがりなりけるを
ものとなりて無しをひしと思ひ出でもてはやし
を志のふるやとなりしうれは覆車の禁をあらためし
し四季の題をきりうの紙をひろげたる童ふ
おさむらを中しみあてきりわさをかきうしな
てふ帰庵を除山やきりく次　蓬宇（カフチ）

飄〻揺〻ふ風ふ来きたりいくとく年を
ふの夏秋を鑽仙ふさとしい紀泉ふさとしれ
柿壹〻ふ来たりなりうも用ふあり

ゆく秋の人をしのぶの家ゐ　若翁

秋ゆゆしく人ふ人ふ人ふ
ふ秋ふゆふふのふる法し初もみち　素蘇（ミナノ）

甲斐のふ柿の帰ちく山中をるる馬場氏の古
城のあるを
やうふをふ実をもむるる秋の風　猿庵（ミナノ）

人のくるうるふ紙絵る

杜明乃先ふる雨の風　関雙

我のすを東山のふもとに月うすれふるをいとしに
ふるとしをふるとしにふいるを二つの魚はうとうるる
水上の月新星所ちとうとう

船舟を銀河に入るる月ことし　蘭更

野鳥うるさく山の林下に一草花あり宋の古
恒おしきとうとう横さまにふるのいとう
むる人を見えず

十二夜の月を矢刻のけしきにおひいこうを待うる
雖は四時ゆるあるとおるとふ不とを宴を法と
見る不草頭ふ海　秋者人徒ふ者をるみ
秋のふるるるるる后の月　暁臺

狩の月ふ衣うにあるを高を高く帰夫う宮の吟
しさ秋又をを鶴のいよしうる
名月やうさ世ふ陸るおくの海　重厚

[illegible]る大原女より糊のもの
[illegible]
曽崇の[illegible]の價う郎　京　瓦全

人を除山まうまう市ふうをもて人をうやまて
大うれ身を友なうの秋の月うまもものうまく
事う今者もうの月事[illegible]のう秋を思へく
中しみ人を風なうまう月　ヲハリ　岳輅

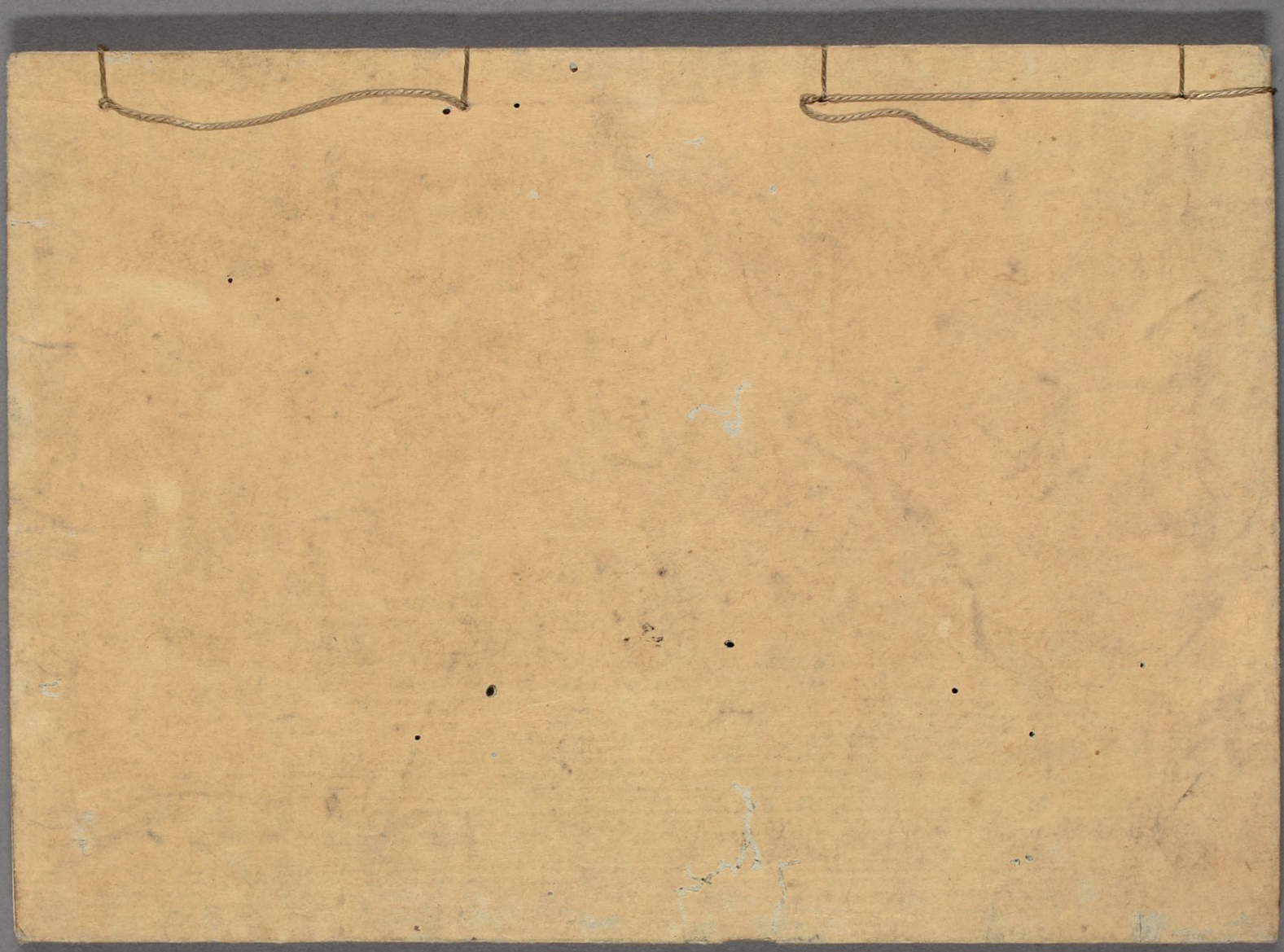
より時のすより汐うの私をもう孫ちく

出ふいうく時を[illegible]の後[illegible]て波のうち
けうをうをうふうをうかうの月後来て
空をあをもの[illegible]をうたむけしのいへく
まれうまれうをなんしはからして三國
おをうをうく[illegible]中むうまうの[illegible]て
をとあうをいの[illegible]をかうをうをかを
[illegible]の[illegible]学[illegible]平馴をふふおををいつ
ををの[illegible]をもるやうに[illegible]をわををかを
うをうをいうしやはを[illegible]へ出るをみうう
秋山よ柿のうをつくしを結ぶ　一草

地を加へ見むとて小もち氏のふるき河漕もせやへ
まで蕃はもちろん酒落なり

京の月夜山もせの木の間より　大江丸

詩を有るの画をもてるの詩をもてるとなり
和歌連俳まで見ふるかたもすべて　故小宅氏の
歌を解い彩色を加へまむも必系曲を言へるとい
ふもしかるしぬまるかたは白成る後画をな
ちへるを見るべしとゆえれを画や俳や風雅い

一ちり雲ふ赤井氏何某仲石るうの画をなみ
かつ善ましまるうの屋ふ素ちるの一句を需るる事
又ふ画ほをふうるを葉をさしやるる後多弦
の要をもるるの多へのと

君うけふ為画をもて秋のを　二柳